

MC-130J 特殊作戦機からの部品落下事故に対する抗議決議

本年、10月18日午前5時40分頃、嘉手納基地に着陸したMC-130J 特殊作戦機から着陸装置の主脚にある部品（重さ約500グラム、長さ約134センチメートル、直径約3センチメートル）を落下させたことは、人命に関わる重大事故になりかねず、周辺住民の不安を増大させた。

また、飛行後の点検で発覚したにもかかわらず、米軍からの詳細は事故発生から1週間後の10月25日であった。本件に関し詳細の公表が遅れたため、メディアから「部品は嘉手納基地へ落下した」と報道されるなど情報が錯綜した。

日米合意では、米軍による事件・事故の発生時には、正確、かつ迅速な情報提供をするとある。沖縄県のみならず、関係自治体や関係機関は、情報提供を繰り返し求めてきたにもかかわらず、通報の遅延や情報提供がなされない状況は、人的被害がなければ問題ないとの米軍の安全への認識欠如であり、到底容認できるものではない。

近年、県内においては、去る8月27日普天間基地所属のCH-53Eヘリコプターの窓を落下させる事故が発生した際にも事故発生から2日後で、平成29年12月7日には、同型機のものと思われる部品が宜野湾市の保育園に落下。そのわずか6日後には、同じく同型機から普天間第二小学校のグラウンドに重さ約7.7キログラムの窓を落下させるなど、米軍の安全管理体制や再発防止策を受けてのチェック機能に強い疑念と憤りを禁じ得ない。

よって、本町議会は町民の生命、財産、安全を守る立場から米軍及び関係当局に対し、厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

記

- 1 事故に関する正確、かつ迅速な情報提供を行い、その結果を速やかに公表すること。
- 2 事故の再発防止と具体的な解決策を日米両政府で早期作成、公表、実施すること。
- 3 全ての在沖米軍基地を整理縮小・撤去すること。
- 4 北谷町及び米軍基地所在自治体を含む沖縄県、日本政府、米国政府の三者による特別対策協議会を早期に設置すること。
- 5 日米地位協定の抜本的な改定を早急に行うこと。

以上、決議する。

令和元年11月1日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

駐日米国大使 米インド太平洋軍司令官 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
第353特殊作戦群司令官 在沖米国総領事